



日本大学 生物資源科学部

校友会会報

2015(平成27年) 第68号



森林資源科学科 4年 山中 岳史郎



植物資源科学科 4年 松山 友芽



桜水会会員 相澤 寛 (学部内アイザワ写真館)



海洋生物資源科学科 4年 椎橋 七重

《目

学部長挨拶、会長挨拶	2
平成27年度総会・懇親会	3
平成26年度校友会決算および	
平成27年度校友会会計予算	3
校友だより(富嶽会、満喜葉会)	4
校友だより(いもづる会、工学会)	5
トピックス(東日本大震災、100円朝食)	6
富嶽会(生命農学科)	7
紫友会(生命化学科)	8
角笛会(獣医学科)	9
満喜葉会(動物資源科学科)	10

次》

いもづる会(食品ビジネス学科)	11
あすなる会(森林資源科学科)	12
桜水会(海洋生物資源科学科)	13
工学会(生物環境工学科)	14
F T会(食品生命学科)	15
拓友会(国際地域開発学科)	16
応用生物科学科校友会(応用生物科学科)	17
短期大学部湘南校友会(短期大学部生物資源学科)	18
支部だより(宮城県支部、山形県支部、高知県支部)	19
支部だより(神奈川県支部)	20
校友会からのお知らせ	20

「ご挨拶」

日本大学生物資源科学部 学部長 河野 英一

錦秋の候、日本大学生物資源科学部校友会の皆様にはますますのご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。本学部の近況をお知らせいたし、ご挨拶とさせていただきます。

本年度の入学生を迎えての4月の開講式の式辞で躍進著しい本学部を次のように紹介いたしました。これがまさに本学部の近況であります。

『入学生の皆さんは、本日本学部のキャンパスに晴れて新入生として足を踏み入れました。満開の桜の木を処々に見ながら体育館へと入場しましたが、何を感じましたか。近代的な種々の高層ビルと豊かな緑とが巧みに調和していて心が和んだことと思います。さらに、この外側には農場や里山などが広く展開しており、これらを含めて東京ドーム12個分の広大な敷地からなるキャンパスとなっています。皆さんは、この素晴らしいキャンパスからなる教育・研究環境のもとで、学業・研究に大いに励むとともに、スポーツ活動や文化・芸術活動も十分に楽しみ、充実した学生生活を送ることができます。

来年春には、現在工事中の所に壁面緑

化・屋上緑化を備えた環境に優しい快適な2階建ての建物と正門からその建物の屋上を通して、昨年7月に竣工した超デラックスで、毎日学校へ来たくするという学生ホールと講義室とからなる1号館（六十周年記念棟）の3階の入口に繋がる道路とが完成します。明後日の4月4日には可愛い1年生がこのキャンパスに正門から登校して来て、新しく設置された日本大学藤沢小学校の入学式が行われます。

さて、戦後の昭和30年頃から始まった高度経済成長以降の日本の発展とともに、日本の農学・獣医学は、農林水産物の生産・利用科学や家畜の診療科学を一層進展させるとともに、生命科学および環境科学を中心に、多くの分野へと侵出し、その分野の主導者となる、あるいは関連する科学の調和・共生・融合である総合科学領域を形成するなどにより、多様な分野を大きく包含するようになりました。これを踏まえて、本学部は19年前の平成8年に生物資源科学部へと学部名称を変更、同時に学科名称およびカリキュラム等も変更して今日に至っています。今や、本学部は、



生命・生物を中心とする総合科学の教育力・研究力を誇る総合科学部、いや総合大学というものになっています。

そして、本学部各学科の質に関する大学偏差値等の社会的評価の数値は、皆さんもご存じのように、今や日本大学の理工系、医歯薬系の学部の中ではトップクラス、全国では農学・生物系私立大学全体の中でトップクラスであります。さあ、本学部で、「学びの面白さ」と「学んで成長していく喜び」を知ろうではありませんか。』

校友の皆様には、素晴らしい本学部キャンパスを是非とも訪問いただきたくよろしく願ひ上げます。今後とも、教職員一同は丸となって本学部の発展のために尽力いたしてまいります。

「ご挨拶」

日本大学生物資源科学部校友会 会長 内田 俊太郎

文部科学省は、平成3年に203万人だった18歳人口が、平成42年には101万人まで半減することを背景に、定員縮小、人材育成の明確化、教員養成や人文社会科学等の学部・大学院の組織廃止。社会的要素が高い理工学系と農学生命科学系の定員増加について積極的に取り組むよう指導しています。

その他、総務省は企業の海外進出に伴い外国で暮らす児童・生徒の増加のなか、日本人学校（281校）の教員不足から、退職者の派遣による人材確保と教育環境の充実に向け、学校運営の財政支援強化を外務省・文部科学省に求めています。

今後の人口減少に伴う大学運営と企

業の人材確保を考える上で、日本の大学に多くの留学生を迎え入れる戦略も動き出しています。

これらは、色々な制約があることも事実ですが、諸外国から来た留学生に日本語を教える教員の絶対数が不足していることもあげられています。

今までの社会経験を活かして日本語教師として活躍されている方に、日本語教師になった理由を聞いたところ「商社勤務で世界中を飛び回っていましたが日本語を一度も使う機会がありませんでした。留学生が正しい日本語を学び、日本語が世界でも通用するようになればならないと考え教師になりました。」との答えが返ってきました。



日本が世界平和と国家安泰に向けてより積極的活動を増やす中、私達も日本大学の20年先・50年先の発展についての提言と、積極的活動が今まさに問われていると思います。



平成27年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会・懇親会報告

平成27年度の通常総会及び懇親会は、平成27年7月11日(土)開催しました。

通常総会は、日本大学生物資源科学部NUホールAにおいて午後2時から91名の会員に出席をいただき、津曲幹事長の開会の辞、司会進行で開始しました。

議長に紫友会浜野会長が就任し、議事録署名人に「角笛会の丸山会員」及び「工学会の福田会員」が満場一致で選出されました。

校友会執行部の紹介後、議事に入り、まず、報告事項として平成27年度の会長賞受賞者は、会員4名、準会員1名、準会員が組織する1団体であると報告がありました。

続いて審議に移り執行部提案の次の5議案を審議し全て賛成多数で承認されました。

- 1 分会選出幹事の交代
- 2 平成26年度事業報告
- 3 平成26年度会計決算報告
- 4 平成27年度事業計画(案)
- 5 平成27年度会計予算(案)

審議終了後、浜野議長は議長を辞任、津曲幹事長が閉会宣言し、平成27年度通常総会は、午後3時13分閉会しました。

懇親会は、同日午後4時から学部食堂棟において田中日本大学理事長・校友会会長、河野生物資源科学部長を始め、日本大学校友会本部及び他学部校友会の来賓の方々並びに学部

教職員及び会員の方々総勢172名のご出席をいただき、近藤副会長の開会の辞の後、津曲幹事長の司会進行で開始しました。

校歌斉唱、内田校友会会長挨拶、来賓の挨拶、平成27年度会長賞の表彰式と続き、河本生物資源科学部事務局長の乾杯の音頭で懇親会は始まりました。

例年どおり、各分会毎にテーブル席を設け旧交を温めていただきました。

約2時間の懇親会もあっという間に過ぎ来年の再会を約束し、津曲幹事長の閉会の辞で午後5時50分平成27年度懇親会は終了しました。

平成26年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計決算書
(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

平成27年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計予算書
(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)		(金額単位: 円)			
科 目	26年度予算(A)	26年度決算(B)	差異(A-B)	備 考	
1. 前年度繰越金	21,168,869	21,168,869	0	現 64,521円, 預 21,104,348円 (普 3,124,997円, 定 17,979,351円)	
2. 会費収入	45,120,000	44,733,000	387,000		
1) 準会員還付金収入	44,718,000	44,214,000	504,000	7,369名×6千円	
2) 正会員還付金収入	402,000	519,000	▲117,000	173名×3千円	
3. 寄附金収入	0	0	0		
4. 祝金等収入	1,131,000	1,240,000	▲109,000	総会・懇親会の会費及び祝金その他	
5. 雑収入	71,000	64,070	6,930	預金利息等	
収入合計	67,490,869	67,205,939	284,930		

(収入の部)		(金額単位: 円)			
科 目	27年度予算(案)(A)	26年度決算(B)	差異(A-B)	備 考	
1. 前年度繰越金	18,738,175	21,168,869	▲2,430,694	現 64,521円, 預 21,104,348円 (普 3,124,997円, 定 17,979,351円)	
2. 会費収入	45,003,000	44,733,000	270,000		
1) 準会員還付金収入	44,556,000	44,214,000	342,000	7,426名×6千円 ⇒ 5ヵ年平均	
2) 正会員還付金収入	447,000	519,000	▲72,000	149名×3千円 ⇒ 5ヵ年平均	
3. 寄附金収入	0	0	0		
4. 祝金等収入	1,200,000	1,298,000	▲98,000	総会・懇親会の会費及び祝金その他 ⇒ 5ヵ年平均	
5. 雑収入	10,000	6,070	3,930	預金利息等 ⇒ 5ヵ年平均	
収入合計	64,951,175	67,205,939	▲2,254,764		

(支出の部)		(金額単位: 円)			
科 目	26年度予算(A)	26年度決算(B)	差異(A-B)	備 考	
1. 分会交付金	22,359,000	21,597,000	762,000	初回還付金×1/2	
2. 経常費	13,060,000	12,174,693	885,307		
1) 人件費	5,000,000	4,450,130	549,870	事務局勤務者に係る給与	
2) 本部分担金	470,000	470,000	0	日本大学本部校友会に対する支部会費及び役員会費	
3) 事務局運営費	1,200,000	1,242,988	▲42,988	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費	
4) 通信費	2,600,000	2,515,962	84,038	分会会報発送費、都道府県支部等への資料発送費等	
5) 会合費	1,200,000	1,081,170	118,830	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る費用等	
6) 交際費	1,200,000	1,239,673	▲39,673	分会、都道府県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等	
7) 旅費交通費	1,300,000	1,088,520	211,480	出張旅費、運営補助費(5委員会除く)等	
8) 支払手数料	90,000	86,250	3,750	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料	
3. 事業費	20,100,000	13,796,071	6,303,929		
1) 総会費	2,300,000	1,946,889	353,111	総会・懇親会、臨時総会開催経費等	
2) 広報費	3,350,000	2,387,836	962,164	会報/パンフレット印刷、ホームページ管理費等	
3) 総務委員会運営費	70,000	14,000	56,000	委員会開催経費及び運営補助費	
4) 財務委員会運営費	70,000	12,000	58,000	委員会開催経費及び運営補助費	
5) 企画委員会運営費	70,000	8,000	62,000	委員会開催経費及び運営補助費	
6) 広報委員会運営費	100,000	89,806	10,194	委員会、会報編集委員会開催会議及び運営補助費	
7) 組織委員会運営費	70,000	10,000	60,000	委員会開催経費及び運営補助費	
8) 記念事業補助費	300,000	100,000	200,000	分会の記念式典開催に伴う補助	
9) 準会員対応費	10,400,000	8,301,602	2,098,398	学部に対する寄付及び募金、スポーツフェスタ等への支援	
10) 表彰記念品費	150,000	20,000	130,000	総会における表彰者に対する記念品等経費	
11) スポーツ振興対応費	320,000	102,000	218,000	日本大学が「」振興関連等費用	
12) 箱根駅伝対応費	300,000	121,000	179,000	箱根駅伝の応援等に係る費用	
13) 東日本大震災対応費	1,500,000	336,438	1,163,562	震災支援に係る関連費用	
14) 組織拡充計画費	1,000,000	246,500	753,500	都道府県支部運営資金の一部補助等	
15) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金(H34年度まで10ヵ年)	
4. 予備費	4,000,000	900,000	3,100,000	附属高次の全国大会出場賛助金	
当年度支出合計	59,519,000	48,467,764	11,051,236		
次年度繰越金	7,971,869	18,738,175		現 84,782円, 預 18,653,393円 (普 674,042円, 定 17,979,351円)	
支出合計	67,490,869	67,205,939	284,930		

(支出の部)		(金額単位: 円)			
科 目	27年度予算(案)(A)	26年度決算(B)	差異(A-B)	備 考	
1. 分会交付金	21,781,000	21,597,000	184,000	初回還付金×1/2	
2. 経常費	12,860,000	12,174,693	685,307		
1) 人件費	5,000,000	4,450,130	549,870	事務局勤務者に係る給与	
2) 本部分担金	470,000	470,000	0	日本大学本部校友会に対する支部会費及び役員会費	
3) 事務局運営費	1,200,000	1,242,988	▲42,988	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費	
4) 通信費	2,600,000	2,515,962	84,038	切手・葉書代、都道府県支部等への資料発送費等	
5) 会合費	1,000,000	1,081,170	▲81,170	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る費用等	
6) 交際費	1,200,000	1,239,673	▲39,673	分会、都道府県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等	
7) 旅費交通費	1,300,000	1,088,520	211,480	出張旅費、運営補助費(5委員会除く)等	
8) 支払手数料	90,000	86,250	3,750	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料	
3. 事業費	18,830,000	13,796,071	5,033,929		
1) 総会費	2,300,000	1,946,889	353,111	総会・懇親会、臨時総会開催経費等	
2) 広報費	3,350,000	2,387,836	962,164	会報印刷、パンフレット印刷、ホームページ管理費等	
3) 総務委員会運営費	50,000	14,000	36,000	委員会開催経費及び運営補助費	
4) 財務委員会運営費	50,000	12,000	38,000	委員会開催経費及び運営補助費	
5) 企画委員会運営費	50,000	8,000	42,000	委員会開催経費及び運営補助費	
6) 広報委員会運営費	130,000	89,806	40,194	委員会、会報編集委員会開催会議及び運営補助費	
7) 組織委員会運営費	50,000	10,000	40,000	委員会開催経費及び運営補助費	
8) 記念事業補助費	200,000	100,000	100,000	学部及び支部の記念式典開催に伴う補助	
9) 準会員対応費	10,000,000	8,301,602	1,698,398	学部に対する寄付及び募金、スポーツフェスタ等への支援	
10) 表彰記念品費	150,000	20,000	130,000	総会における表彰者に対する記念品等経費	
11) スポーツ振興対応費	200,000	102,000	98,000	日本大学スポーツ振興関連等費用	
12) 箱根駅伝対応費	200,000	121,000	79,000	箱根駅伝の応援等に係る費用	
13) 東日本大震災対応費	1,000,000	336,438	663,562	震災支援に係る関連費用	
14) 組織拡充計画費	1,000,000	246,500	753,500	都道府県支部運営資金の一部補助等	
15) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金(H34年度まで10ヵ年)	
4. 予備費	6,000,000	900,000	5,100,000		
当年度支出合計	59,471,000	48,467,764	11,003,236		
次年度繰越金	5,480,175	18,738,175		現 84,782円, 預 18,653,393円 (普 674,042円, 定 17,979,351円)	
支出合計	64,951,175	67,205,939	▲2,254,764		

校友だより

稲作の原点

農学科(現:生命農学科)
平成10年卒業 新井 圭介
元 JICA 専門家



新井 圭介氏

卒論でコメを扱い、卒業後、青年海外協力隊稲作隊員としてパナマで活動しました。帰国後 NPO を立ち上げ活動しておりましたが、2009 年 10 月から 5 年 5 か月間、JICA のマダガスカル中央高地コメ生産性向上プロジェクトに小規模稲作の専門家として携わりました。マダガスカルの稲作は日本のそれとはまったく異なります。灌漑施設はあるものの水はほぼ雨頼み、作業はほぼ人力と畜力、品種は混じっており、化成肥料はほとんど使われず、手押し除草機、石に叩き付ける脱穀、収穫後の選別は風頼み、籾摺り精米は白で突く。教科書でしか見たことのないような欠乏症が普通に見られ、微量要素の欠乏地帯もありました。農地整備はされておらず、田んぼの形はまちまちで、谷という谷に棚田がありパッと見収量は 2ton/ha ほどに感じました。

そんな中、我々が勧める技術を見て体験して納得してもらえるように、農家さん達と一緒にデモンストレーション圃場を設置し、様々な技術や人力農業機械を試しましたが、初体験のことばかりでした。現在の日本の稲作は高度すぎてマダガスカルでは通用しません。稲作がお家芸である日本では、すでに見られなくなった昔の稲作がマダガスカルでは標準技術

です。土壌条件も一筆毎に異なる様で、同じように植えても上手くいかないことがよくあり、試行錯誤の毎日です。勉強すればするほど分からないことが見つかり、経験すればするほど断言できなくなります。人生死ぬまで勉強といいますがまさにその通りと感じたマダガスカルでの活動です。



1 回目除草後

学生時代に学んだ畜産業に携わる

畜産学科(現:動物資源科学科)
昭和 60 年卒業 山口 正明
富士農場サービスグループ
(有) TOPICS



本人と恩師の小牧先生(右): 本年7月の同窓会にて

農獣医学部畜産学科(現:生物資源科学部動物資源科学科)を卒業して、東京で10年間サラリーマンをした後、思うところあり職を転々としたが、14年前、知人から現在勤務している会社の社長を紹介して頂いたことから現在に至ります。会社は、富士農場サービスグループの TOPICS というところです。農場は静岡の朝霧高

原にあり、目の前は富士山です。暖かいイメージの静岡県ですが、雪はかなり積もります(昨年2月の大雪の時などは2m以上も積もってしまい、大変苦勞しました)。会社の事業内容は、豚の人工授精用の精液およびその関連機材の販売、そして種豚の販売です。私の仕事としては、農場での豚の飼養管理が主となっており、現在は分娩舎を担当しています。大学では主に反芻動物のことを勉強していたため、同じ畜産学でも豚に関する知識は殆どありませんでしたので、本当に一からの勉強でした。しかし、サラリーマン時代のデスクワークよりも体を動かしていた方が私には合っているらしく、あっという間に14年。

畜産学科を卒業した私が、最終的に畜産業界で仕事ができるのは、やはり幸せなことだと思っています。動物相手の仕事なので、当然、盆、正月は無く、更に現在は TPP や伝染病など、様々な問題を抱えている業界ではありますが、頑張っていこうと思っています。



子豚育成の様子

率先垂範で働くこと

食品経済学科(現:食品ビジネス学科)
平成25年卒業 小森谷 匠
(株)グリーンハウスフーズ
(とんかつ新宿さぼてん)



小森谷 匠さん

私は食品経済学科に入学し、「食」が生み出される農林漁業(食料資源・環境)、「食」が加工される食品産業、「食」を提供する外食・中食産業など、農場から食卓までの食の流れ=フードシステムを学びました。その中で、食を通して消費者の声が聞き易く身近な“外食・中食産業”の魅力に惹かれ、(株)グリーンハウスフーズに入社しました。

私は、幾度の試験に合格した後、入社2年目で、店長としての「とんかつ新宿さぼてん」の運営を任されました。現在、私はデリカ店舗(テイクアウト店)の店長をしています。お客様には一人ひとりに合ったサービスを、店舗スタッフには働きやすい環境を提供することが店長の役割です。他にも売上や人件費などの数字管理、スタッフ採用・育成なども行っています。

働く上で大切なことは“率先垂範”です。ほとんどのスタッフが私より年上の方々、仕事・人生経験が及びません。未熟な立場として、まずは出来ることから、何事にも真剣に真面目に取り組む、そしてコミュニケーションを大切にしています。スタッフとの良好な関係づくりを図り、その結果、入社3年目には店舗でかかげる目標をスタッフと共に達成、幾つもの賞を頂きました。お客様からも店舗のお褒めをいただき、リピーターのお客様を増やしています。今年10月には新店舗の店長として配属される予定です。新たな土地で日々感謝しながら、頑張りたいと思います。



素材や製法にこだわったとんかつ専門店ならではの商品たち



同期社員との研修

明日の安全をつくる人々

生物環境工学科
平成16年卒業 伊藤 一
現 JR東海

畑違いと思われるかもしれませんが、本学科は旧農業工学科であったため、私のように土木系職種に就いてインフラ整備やその維持管理に関わる卒業生が多々いらっしゃいます。

私は現在、東海道新幹線の土木構造物の維持管理を担当しており、現

在に限らず将来にわたって構造物の健全性を保ち、新幹線の安全・安定・快適輸送を確保するために種々の課題と格闘しています。

皆さまが目にするもので、私が関係したものを一つ紹介させて頂くと、ホームドアがあります。ホームドア自体は機械の分野ですが、それを載せるホームは土木構造物であるのでホームドアを設置してもホームが壊れないか計算し、問題がある場合はホームの補強工事を行います。補強方法は鋼板貼付け、コンクリート増厚、梁増設などを検討し、設計・工事を経てホームドアを設置します。お客様の安全・安心に繋がったと考えたとやりがいを感じます。このように鉄道はお客様の目に見えないところで多くの人が知恵をだし、汗をかくことで支えられています。

当社では平成25年度から10年間にわたり開業から半世紀経つ構造物の延命化措置として、大規模改修工事に着手しました。当初は運休を伴って橋などを取替える工事を想定していましたが、技術開発の成果もあり運行したまま同等の効果が見込める工事を行っております。これは事後保全でなく予防保全の観点から取り組んでいる施策です。また12年後のリニア中央新幹線の開業にむけて様々な施策が目白押しです。私も日々奮闘し、失敗は上司に尻ぬぐいしてもらいながら邁進しております！



会社の後輩達と長良川でラフティング(一番左が私)

トピックス

東日本大震災支援報告—福島の子供サマーキャンプ

5回目となる福島こどもキャンプは、7月30日～8月3日に湘南キャンパスを中心に実施されました。今回は福島の子供たちを受け入れてきた藤沢市内のボランティアグループと共同で、福島一円から希望者を募って開催しました。福島から子供19人、大人15人の参加がありました。

丁度オープンキャンパスの日で、農場での動物ふれあいやバター作り体験の他、様々な催しにも参加してもらうこ

とで、生物資源科学部を知ってもらうことができました。依然として10万人以上が疎開を余儀なくされている現状で、希望者には甲状腺検査も市内の病院の協力を得て行いました。多くのボランティア、学生の協力、そして学部校友会を始め、学部やその他多くの団体、企業からご支援いただいたことに、感謝申し上げます。

(動物資源科学科 小林)



スイカ割



農場での1コマ

100円朝定食の実施

昨今の学生の食生活の乱れが延いては学生生活の乱れの一因となっていることを鑑み、まず朝食をきちんと摂ってもらおうということで、学部校友会は、学部と共同で学生食堂の協力を得て、昨年度から通常250円の朝定食を100円で提供し差額の150円を学部校友会が負担する「100円朝定食」を1日100食、前後期30日間ずつ計

60日間の限定で実施しております。平成27年度も昨年度同様の条件で前期30日間実施しました。その実績は、3,000(100食×30日)食に対し2,977食で99.2%の利用率で好評を博しております。後期は現在実施中で前期同様100%近い利用率です。学部校友会は、次年度以降もこの「100円朝定食」を実施していく方針です。

100円朝定食が始まりました！



本学部校友会の支援により、前期と同様に「100円朝定食」を提供いたします。

「100円朝定食」をきっかけに、規則正しく健康的な生活を送り、より勉学に励むことができる環境を作りましょう！！

日 時 平成27年9月14日(月)～10月29日(木)
平日8:30～10:30(休校(講)日を除く)

場 所 食堂棟1階

対 象 者 本学部の学生(学部生・短大生・大学院生)
※ 学生証を提示してください。

1日100食 限定です！！

100円朝定食

本学部校友会の支援により、今年度も「100円朝定食」を提供いたします。「100円朝定食」をきっかけに、規則正しく健康的な生活を送り、より勉学に励むことができる環境を作りましょう！！

日 時 平成27年4月9日(木)～5月27日(水)
平日8:30～10:30(休校(講)日を除く)

場 所 食堂棟1階

対 象 者 本学部の学生(学部生・短大生・大学院生)
※ 学生証を提示してください。



1日100食 限定です！



朝食をしっかり摂りましょう！

富嶽会

生命農学科

連絡先：作物科学研究室
0466-84-3503 事務局長 磯部 勝孝
E-mail: isobe64@brs.nihon-u.ac.jp

富嶽会の活動

【富嶽会総会】

富嶽会総会が平成27年5月16日に開催されました。総会では、平成26年度事業報告・会計報告と平成27年度の事業計画・予算が審議され、承認されました。総会后、新たな試みとして、講演会が開催されました。今回は学科教員による講演で、花の科学研究室の腰岡政二教授が「生育・開花の調節（花芽分化の誘導について）」、園芸科学研究室の井上弘明教授が「果物の魅力」について講演されました。講演会終了後は、本館地下のカフェテリアで懇親会が開催され、準会員（学生）も一部参加し、盛会に終了しました。



富嶽会懇親会

【学科準会員への支援活動】

校友会からは準会員へ様々な支援を行っています。新入生に対しては、Tシャツおよびエコバックを贈呈し、学生はスポーツフェスタや実習で使用しています。今年度の入学者より学科名称が生命農学科にかわり、実習服に学科名 (Agricultural bioscience) のロゴマークを刺繍し、学科ならびに校友会との一体感をはかっています。一方、在校生全体に対して、45年間続く収穫祭の支援を行うとともに、同日に開催される校友会杯争奪スポーツ大会を行っています。学部3年生に対しては、卒業生による就職

相談会を実施し、多数の学生が参加し、就職活動に役立てています。また、この春に卒業した4年生には、USB型の携帯電話充電器を贈呈しました。

生命農学科・植物資源科学科の近況

【卒業生・新入生】

本年3月に150名（男子89名、女子61名）の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。今後の活躍を期待しています。4月には新入学生153名（男子93名、女子60名）を迎え、総数618名（男子356名、女子262名）の学生が生命農学科・植物資源科学科に在籍しています。新入生オリエンテーションは4月18日に鶴沼海岸で実施され、お互いの親睦を深めました。また、5月14日には学部主催のスポーツフェスタが行われ、前述の通り、校友会から寄贈されたTシャツを着て競技に奮闘しました。



新入生オリエンテーション（地引網）

【学科教員の動向】

平成26年11月22日付で、勝野武彦教授（造園・緑地学研究室）が定年退職されました。勝野先生は、昭和42年に本学卒業後、東京大学に進学され、昭和46年に助手として採用されてから43年にわたり学部・学科の発展に寄与されるとともに多数の卒業生を輩出しました。長年にわたるご活躍、大変お疲れ様でした。本年4月1日付で肥後昌男先生（作物科学研究室）が助教に昇格されました。今後、作物生理機能科学等の講義も担当されます。また、上吉原裕亮先生（園芸科学研究室）が助教として新規採用されました。上吉原先生は、名古屋大学大学院にて博士号を取得後、ア

メリカフロリダ大学で4年間にわたり、トマトの成熟やフレーバー形成に関する研究をされていました。お二人のますますの活躍が期待されています。



上吉原 裕亮 助教

【学科名称変更に伴う受験生の動向】

平成27年4月1日より学科名称が植物資源科学科から生命農学科に変更されました。昨今の農学ブームを反映し、前年よりも大幅増の約1,200名の受験生が本学科を志願し、学部でも獣医学科に次ぐ人気でした。

【国際交流】

8月29日～9月10日に本学科の学生がタイ王国メチョー大学（チェンマイ市）を訪問し、熱帯地域の農業概論、セミナーを受講し、各種研究機関、生産地、市場等を視察しました。講義や説明はすべて英語で行われ、学生は熱心に聴講しました。また、現地では実習も行われました。最終日には研修の成果について、学生が英語によるプレゼンテーションを行いタイの先生方に報告しました。アジア圏における農学の勉強や現地学生との人的交流、文化的理解を深めるグローバル教育を実施しています。

富嶽会総会のお知らせ

平成28年5月14日（土）13時より富嶽会総会・講演会・懇親会を開催します。学科卒業生の方は自由にご参加いただけますので、ぜひご出席ください。なお、富嶽会会報は資金面の問題から当面休刊にすることが総会にて承認されましたので、本会報が会員の皆様との連絡となります。ホームページもありますのであわせてご覧ください。と思います。

（立石 亮）

紫友会

生命化学科

連絡先：発酵化学研究室

0466-84-3945 事務局長 荻原 淳

E-mail: j-ogihara@brs.nihon-u.ac.jp

平成27年度 紫友会 一活動経過報告一

【紫友会60周年記念式典】

平成26年11月8日(土)本学部にて各界でご活躍の以下の5名のシンポジストをお招きし、紫友会60周年記念式典シンポジウムを執り行いました。春見隆文本学科主任(演題：生命化学—今日的な意義とその役割)、有賀豊彦本学名誉教授(演題：健康食品の今日、そして明日)、山口隆宏様(一般社団法人日本水産会)、(演題：実験科学としての農芸化学から国際的な食品衛生管理手法であるHACCPに至るまで)、飯岡恵様(株式会社みずほ銀行)、(演題：ゆるい計画から広がる世界)、門倉一成(株式会社紀文食品)、(演題：農芸化学科で学び得たこと)シンポジウムは準会員(学生)からの熱心な質問に自然と熱気を帯び、盛況のうちに懇親会の開催へと相成りました。

紫友会60周年を記念して、「紫友会特別賞」を新設しました。対象は大学、学部及び学科の名声を高めた準会員および生命化学科在学生とし、第1回紫友会特別賞は同特別賞選考委員会により厳正に選考され、下記の学生に決定しました。



紫友会60周年記念シンポジウム

【平成26年度 第1回紫友会特別賞】

江口輝(博士前期課程2年;第35回日本血栓止血学会において優秀ポスター賞受賞)、篠崎祐子(博士前

期課程2年;第28回キチン・キトサンシンポジウムにおいてポスター賞受賞)、三浦徳(博士前期課程2年;第17回上級バイオ技術者認定試験において優秀者として表彰)

【理事会開催】

定例の理事会は本年7月4日14時より本館32講義室で開催されました。浜野会長の挨拶から始まり、平成26年度事業・決算報告が事務局よりなされ承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ承認されました。次に平成27年度の事業計画・予算案が審議され、満場一致で承認されました。

【平成27年度 第22回紫友会奨学生決定】

理事会の同日に奨学生選考委員会により厳正に選考された以下9名が奨学生として決定しました。

2年次:野口惇、諏訪綾風、小坂浩輝、3年次:青山結郁、今野勇希、木戸一裕、4年次:河田世梨、宇田川賢太、池島あい

【平成27年度 第2回紫友会特別賞決定】

同日に紫友会特別賞選考委員会により厳正に選考された以下4名が特別賞を授与することに決定しました。峰岸紋子(博士前期課程2年;第3回日本大学幹細胞研究フォーラムで優秀演題賞受賞)、矢口真実(博士前期課程2年;日本フードファクター学会若手奨励賞受賞)、三浦一輝(博士後期課程1年;笹川科学研究助成に採択)、松風成美(博士前期課程1年;106th AOCS Annual MeetingにおいてGraduate Student Travel Grants受賞)

生命化学科の近況

【在校生】

平成27年3月25日に本学部アリーナで学位伝達式が開催され、平成26年度生命化学科・農芸化学科卒業生130名が社会へと元気よく羽ばたきました。同式では御子柴直紀さんに優等賞、鷹野まいさん、椎谷彩加さん、

関川直人さん、安田のぞみさんに学部長賞が授与されました。同年4月11日に会員・準会員支援活動の一環として生命化学科1年次学生を対象に新入生セミナーを行いました。本年度は新入生145名(男子76名、女子69名)を迎え入れ、本学科OB/OGからのお祝いの言葉と輝かしい将来についてのお話をいただきました。セミナーは盛況のうちに終わり、新入生歓迎会の開催と相成りました。現在、当学科には総計605名(男子313名、女子292名)の学生が在籍しております。

【学科教員動向】

平成27年4月1日付けで渡邊泰祐専任講師(発酵化学研究室)、伊藤紘子助教(植物栄養生理研究室)が着任されました。また、平成26年度長期海外派遣研究員として細野崇専任講師(栄養生理化学研究室)が平成27年3月より一年間、アメリカカリフォルニア州立大学サンフランシスコ校へ出張しております。



渡邊 泰祐 専任講師 伊藤 紘子 助教

紫友会事務局より

本年より荻原淳准教授が事務局長に就任致しました。今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。紫友会会員の皆様の近況や同期会等の活動の様子を事務局までお知らせ下さい。紫友会のホームページは<http://www.nihon-u-shiyukai.jp>からご覧いただけます。またはインターネット上で「紫友会」と検索してください。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご利用ください。

(赤尾 真)

角 笛 会

獣医学科

連絡先：獣医病態生理学研究室
0466-84-3633 事務局長 鯉江 洋
E-mail: koie.hiroshi@nihon-u.ac.jp

平成 27 年度角笛会総会・ 第 53 回日本大学獣医学会開催

平成 27 年 6 月 28 日(日)、日本大学生物資源科学部 1 号館 第 151 講義室において平成 27 年度角笛会総会及び第 53 回日本大学獣医学会が開催され、多くの会員が集まりました。日本大学獣医学会では森田幸雄担当学会長のもと、口頭発表による 10 題の一般講演、次いで教育講演として「臨床における分子遺伝学～遺伝子から動物の健康を科学する～」と題し、渋谷久先生(獣医分子病理学研究室)、玉原智史先生(相模大野プリモ動物病院)、植松洋介先生(株式会社ケーナインラボ)、丸山治彦先生(獣医臨床病理学研究室)により行われました。本年度も一般講演と教育講演の時間を大幅に確保したプログラムとなり、会場からの熱心な質問も多く、内容の充実した学会となりました。

角笛会総会では中川秀樹会長より挨拶があり、浜田圭議長(昭和 59 年卒)の進行で審議が行われました。総会に先立ち、諸先生方のご訃報に際し、黙祷が行われました。平成 26 年度の事業活動および会計収支報告があり、承認されました。また平成 27 年度の事業活動および予算案が審議され、満場一致で承認されました。角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として長谷川良博氏(福島県)、平野功氏(岩手県)、橋本勝弘氏(埼玉県)、松川定治氏(東京都)、東島肇氏(岐阜県)、益田誠氏(奈良県)、広瀬一氏(大分県)、山口光弘氏(宮崎県)、代々木博氏(茨城県)の 9 人に賞状と記念品が授与され、角笛会特別功労者として阪田実氏(神奈川県)が表彰されました。また日本大学動物病院の獣医臨床技術の向上と臨床獣医学研究の活性化を目的とし

た ANMEC 支援基金研究助成は、原洋平氏(研究課題：イヌの鼻腔内局所免疫機構に関する研究)が授賞しました。総会後、食堂棟 3 階にて開催された懇親会には学部校友会の関村具由副会長をはじめ他学科同僚校友会の来賓、角笛会校友、大学教員そして学部生(準会員)など多数の参加者が集まりました。代々木博氏(昭和 41 年卒)の乾杯の音頭で開幕し、にぎやかに談笑するうちに時間が流れ、盛会裏に終了しました。



平成27年度角笛会功労者の授与式



平成27年度角笛会懇親会の様子

第 13 回、第 14 回日本大学医療系同窓・校友学術講演会の開催

第 13 回日本大学医療系同窓・校友(医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部校友会、獣医学科校友会・角笛会)学術講演会は平成 26 年 10 月 18 日(土) 歯学部主幹で「食と健康」をテーマにシンポジウム形式で開催され、参加者との意見交換が活発に行われました。角笛会からは東京家政大学家政学部栄養学科の森田幸雄教授(昭和 61 年卒)が「食の安全にかかわる食品由来感染症の動向と対策」と題して発表しました。

本年度の第 14 回講演会は 9 月 26

日(土) 松戸歯学部の担当で「家族」をテーマに開催されました。角笛会からは角笛会 会長の中川秀樹先生(昭和 40 年卒)が「動物も家族と考える文化の背景 - その一考察 -」と題して発表しました。

来年は角笛会が担当します。多数のご参加をお待ちしております。



第13回日本大学医療系同窓・校友学術講演会のシンポジウムの様子

人事

本年 3 月をもって佐藤豪助手(獣医微生物学研究室)が退職されました。本年 4 月に、堀北哲也教授(新設：獣医産業動物臨床研究室)、木庭獺達助手(獣医微生物学研究室)、植松愛梨沙実習助手(家畜病院)が採用されました。山谷吉樹先生(新設：獣医麻酔・呼吸器学研究室)、浅野和之先生(獣医外科学研究室)、鯉江洋先生(新設：獣医病態生理学研究室)、北川勝人先生(新設：獣医神経病学研究室)が教授に、枝村一弥先生(獣医外科学研究室)が准教授に、岡林堅先生(獣医生化学研究室)、丸山治彦先生(獣医臨床病理学研究室)、安井禎先生(獣医解剖学研究室)、成田貴則先生(新設：分子生物学研究室)、手島健次先生(異動：獣医麻酔・呼吸器学研究室)、伊藤大介先生(異動：獣医神経病学研究室)、関真美子先生(異動：獣医外科学研究室)、小熊圭祐先生(獣医伝染病学研究室)が専任講師に、大野真美子先生(異動：獣医産業動物臨床研究室)が助教に昇格されました。大場茂夫教授が総合臨床獣医学研究室から新設の獣医歯科学研究室に異動されました。

(岡林 堅)

満喜葉会

動物資源科学科

連絡先：畜産マーケティング研究室
0466-84-3648 事務局長 小泉 聖一
E-mail: koizumi.seiichi@nihon-u.ac.jp

平成27年度満喜葉会 —活動経過報告—

【役員会の開催】

定例の役員会は、本年5月14日(木)午後2時より、博物館2階第1会議室で開催されました。役員会は山本捷会長の挨拶から始まり、平成26年度事業・決算報告が事務局よりなされ承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ承認されました。次に平成27年度の事業計画・予算案が事務局より提案され承認されました。

【スポーツフェスタ、新入生歓迎会の開催】

上記役員会の後、午後4時30分より本館地下カフェテリアにおいて新入生歓迎会が学科・満喜葉会の協賛、学術研究部の協力のもと行われました。

新入生歓迎会と同日に行われた「スポーツフェスタ2015」は、天候にも恵まれ、昨年とは違い全競技がグラウンドで執り行われました。本年も本会からスポーツフェスタ時に着用するTシャツを全新生、教員に進呈していますが、今年は例年より多少薄めの「Navy blue」の生地にも牛のイラ

ストを配ったTシャツをユニフォームとして着用し、見事「総合優勝!」を勝ち取りました。

学科の近況

【卒業生および新入生】

本年3月25日、147名が本学科を卒業し新たに満喜葉会正会員の仲間入りをしました。また、本年4月に152名の新入生を迎え、在籍者は4学年合計で607名(7月1日現在)となっています。本年度の1年生の男女比は、男子65名(42.5%)、女子88名(57.5%：過年度学生を含む)、全学年では男子34.3%、女子65.7%となり、今年度もまた学部内で最も在籍女子学生比率が高い学科となっています(女子学生比率が在籍者の50%を超えているのは当学科以外に獣医学科、食品ビジネス学科、食品生命学科、くらしの生物学科—1年次のみの4学科)。

【学科人事について】

平成25年4月より実習助手として2年間に亘って学科事務等にご尽力戴いた玉造若菜さん(平成25年3月本学科卒業)は、本年3月31日付けで退職されました。後任として、神原サキさん(平成27年3月本学科卒業)が実習助手として採用されました。学科事務の他、学生実験や演習などを補助して頂きます。

本年度の研究室の配置と所属教員(19名)は以下の通りです。

動物組織機能学

(山室 裕 教授、園田 豊 専任講師、相澤 修 助手)

伴侶動物学

(甲斐 蔵 教授、福澤 めぐみ 助教)

ミルク科学

(増田 哲也 教授、川井 泰 准教授)

動物育種学

(長嶺 慶隆 教授)

動物生殖学

(大西 彰 教授)

野生動物学

(村田 浩一 教授、岩佐 真宏 准教授)

草地学

(丹羽 美次 教授、佐伯 真魚 准教授)

飼養学

(梶川 博 教授：学科主任、浅野 早苗 助手)

畜産経営学

(小林 信一 教授)

畜産マーケティング

(小泉 聖一 教授)

学科事務室

(須藤 千絵 実習助手、神原 サキ 実習助手)

(山室 裕)



神原 サキ 実習助手



2015年スポーツフェスタ

いもづる会

食品ビジネス学科

連絡先：農村資源開発論研究室
0466-84-3408 事務局長 宮部 和幸
E-mail: miyabe@brs.nihon-u.ac.jp

幹事会・研究室活動報告会・懇親会を開催

6月6日(土)、幹事会・研究室活動報告会・懇親会が日本大学生物資源科学部の1号館(新館)で開催されました。幹事会では昨年度の活動報告・会計報告と、本年度の活動計画・予算案が承認されました。在校生の就職活動に対する支援強化を図るため、昨年度に引き続き、OB・OGとの就職懇談会やフードスペシャリストの資格試験対策講座などの各種支援を実施することになりました。

本年度からの新たな取り組みとして「研究室活動報告会」を行いました。食品産業論研究室(大石ゼミ)、食品産業構造研究室(大矢ゼミ)、資源・環境経済学研究室(小野ゼミ)の3つの研究室の所属学生たちが、様々なゼミや研究活動などを、スライドをまじえながらユニークに報告、参加者の笑顔のなかで終わりました。懇親会では、会員、研究室活動報告をした学生ほか準会員(学生)を含め約60名で、和やかに行われました。



懇親会

食品ビジネス学科の近況

【新入生】

3月25日に164名の学生(第69期生)が卒業し、本年度は161名の新入生を迎えました。4月には新入生研修会を開催し、上級生から食品ビジネス学科の魅力や講義の受け方のプレゼン、ゼミ対抗クイズ等のイベントもあり、学生間での親睦を深めました。



新入生研修会

5月には学部主催のスポーツフェスタが開催されました。新入生は、投票で一位になったデザインのお揃いのシャツを着て、学科一丸となって奮闘(大縄跳びでは事前練習の成果が出て3位、綱引きでは優勝)、新入生間の結束力が高まりました。



スポーツフェスタ(撮影：難波亜美)

【学科ホームページのリニューアルほか】

学科ホームページを大幅に変更しました。また学科の現在の様子をタイムリーに発信するため、フェイスブックを立ち上げております。学科での各種活動状況やゼミ活動などは、食品ビジネス学科フェイスブックをご覧ください。
<https://www.facebook.com/syokuhinbusiness>

【教職員の動き】

本年4月から片上敏喜先生(フードツーリズム論研究室)、佐藤奨平(食品企業組織論研究室)、清水友理先生(食品開発学研究室)の3名の先生が着任されました。

事務局より

校友の情報を広く共有し、学生との交流促進と学生の就職活動にも活用するため、いもづる会HPを運用しています。校友の情報交換をより活性化させるため、HPにおいて「校友のひろば」を設置しております。HPのURLは以下の通りです。今後、多くの校友の方の情報提供をお願いいたします。食品ビジネス学科HPからもアクセス可能です。<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/>

(宮部 和幸)



研究室活動報告会

あすなろ会

森林資源科学科

連絡先：森林植物・微生物学研究室
0466-84-3666 事務局長 鍛代 邦夫
E-mail: kitai@brs.nihon-u.ac.jp

平成 26 年度あすなろ会 活動報告

【理事会】

平成 26 年 1 月よりスタートした宮島吉夫会長を中心とした新体制のもとで、平成 26 年 8 月 23 日に理事会が開催されました。本年度から通常総会は 3 年に 1 度開催することとなっているため、総会が開催されない本年は理事会で審議いたしました。理事会では平成 25 年度の事業報告・決算報告・監査報告、及び平成 26 年度の事業計画・予算が討議され、承認されました。

【51 期生同窓会】

平成 27 年 5 月 2 日、横浜にて第 51 期生（平成 13 年度卒業）38 名が集まり、同窓会が行われました。久しぶりの顔ぶれに、学生当時の思い出話や近況報告などで盛り上がり、和やかな時間を過ごされたとのことでした。

【文部科学大臣優秀教職員表彰】

平成 2 年に卒業され、青森県立柏木農業高等学校で教員をされている中川伸吾氏（39 期）が平成 26 年度文部科学大臣優秀教職員として表彰されました。おめでとうございます。

学科への支援事業

【学科 OB・OG 就職懇談会】

毎年 11 月に約 20 名の卒業生にお集まりいただき、これから就職活動を迎える 3 年生を対象に仕事内容や就職活動の経験等をお話をしてもらっています。昨年も 11 月 19 日に開催され、林業・住宅・建材・造園・建設系コンサルタンツ・環境系コンサルタンツ・法面土木・公務員等、多くの分野で活躍している卒業生に集まってくれました。この就職懇談会に参加して卒業生が務めている会社の話を聞き、

その会社に就職を決めた学生はこれまでも数多くいます。



平成 26 年 11 月、学科 OB・OG 就職懇談会の様子

【授業・実践森林資源科学での支援】

実践森林資源科学は 2 年生を対象にした授業で、森林・林業の世界で仕事をされている方々をお招きして、大学の授業や実習では見えにくいその世界についての講義をしていただき、学生たちに将来の仕事についてイメージを持たせることを目的にしています。卒業生では林業家の田中惣次氏（15 期卒）、尾瀬で環境保全の仕事をしている中馬慎二氏（35 期卒）、自然環境教育の仕事をしている遠藤耕一郎氏（50 期卒）、造園の仕事をしている今村清敏氏・辻良太氏（58 期卒）に講師としてご協力をお願いしました。

【実習補助学生への支援】

森林資源科学科では 6 月に 1 年生全員を対象とした軽井沢での実習があります。この実習では学生数が多く、教員だけでは人手が足りず 3 年生、4 年生、大学院生に補助学生として協力してもらっています。本年度の補助学生数は 33 名で、彼らの交通費等はあすなろ会から補助しています。



6 月に実施した 1 年生の森林資源科学実習（軽井沢）

【学会発表をした学生への支援】

学科内での卒業研究や大学院生の研究成果の多くが日本森林学会等で学生によって発表されています。平成 26 年度の研究発表件数は 27 件あり、あすなろ会では研究発表を行う学生の学会参加費の補助を行っています。こうした研究に打ち込み成果を上げることで、学生達は成長し学科レベルの向上にもつながると考えています。

【卒業生・新入生への支援】

本年 3 月 25 日に 141 名が卒業し、研究室で最も成績の優秀な卒業生 6 名に「あすなろ会会長賞」として表彰状と記念品を授与しました。4 月には 174 名（男子 135 名、女子 39 名）の新入生を迎え新学期が始まりました。5 月には学科対抗のスポーツフェスタが行われ、あすなろ会から T シャツを全員に提供しました。6 月には毎年実施している 1 年生全員参加の森林資源科学実習を日本大学軽井沢研修所で行いました。浅間山を囲む森林の中で森林資源科学の第一歩を元気にスタートしました。

学科の近況

【学生の就職状況】

平成 26 年度は 21 名が公務員試験等に合格し、森林・林業に関連した合格者は、国家公務員 4、都道府県庁 8、市町村 3、独立行政法人 3 名となっています。

【人事】

実習助手として 4 年間勤めていただいた山口春菜さんが 3 月末で退職されました。後任には平成 26 年 3 月本学科卒業の伊藤由佳さんが就任しました。

【その他】

森林資源科学科及びあすなろ会の情報はそれぞれ下記のホームページでご覧になれます。

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/forestry/index.html>

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/asunaro/index.html>

皆様の近況等を事務局までお知らせください。今後ともご支援をお願い申し上げます。

（阿部 和時）

桜水会

海洋生物資源科学科

連絡先：魚群行動計測学研究室

0466-84-3688 事務局長 小島 隆人

E-mail: kojima.takahito@nihon-u.ac.jp

平成 27 年度桜水会 総会・懇親会を開催

平成 27 年 7 月 4 日(土) 午後 1 より湘南キャンパス 1 号館で「平成 27 年度の総会・代議員会・理事会および 10 年毎の同窓会」が開催されました。平成 26 年度の事業報告、決算報告、監査報告、平成 27 年度の事業計画案、予算案などが審議され、全て承認されました。「10 年毎の同窓会」は、卒業後 2 年目(平成 25 年卒、62 期)、10 年目(同 17 年卒、54 期)、20 年目(同 7 年卒、44 期)、30 年目(昭和 60 年卒、34 期)、40 年目(同 50 年卒、24 期)ならびに 70 歳以上の卒業生を対象に行われました。続いて午後 2 時より海洋生物資源科学科の塚本勝巳教授による講演「うなぎ一億年の謎を追う」が開催されました。さらに午後 4 時より食堂棟 3 階 NUBS ホールで会員・学科教員に加え、準会員である 4 年次在学学生数十名も参加しての懇親会が盛大に開催されました。その際に、平成 27 年度日本大学生物資源科学部校友会の表彰者に決定している目黒勝介氏(15 期、元宮内庁侍従)、相澤 實氏(16 期、相澤写真館)、小野ゆかり氏(64 期、大学院応用生命科学専攻 1 年)に橋ヶ迫覚会長より花束が贈呈されました。



平成 27 年度 桜水会 総会

学科・準会員への支援

今年度の前期には、「海洋生物資源科学概論」(1 年次必修科目)の中で

卒業生の体験談などを参考に将来就いてみたい職業を見出す「職業の研究」の一環として、5 月 12 日に長谷川勝治氏(20 期、元静岡県立焼津水産高校校長)、7 月 14 日に内田潤也氏(61 期、栃木県立馬頭高校)、村上大雅氏(60 期、共立製薬㈱)、7 月 21 日に柴山一輝氏(61 期、東洋冷蔵㈱)、土井亮真氏(60 期、㈲二宮漁場)が講演しました。「特別講義」(3 年次選択科目)では、本学科海洋生物資源応用コース(JABEE 対応コース)の外部評価委員を委嘱されている会員が技術者教育の一環として、7 月 8 日に宮下一明氏(38 期、㈱東京久栄)、7 月 15 日に市橋 理氏(37 期、アジア航測㈱)、7 月 18 日に辻 雅司氏(24 期、㈱日刊食料新聞社)、7 月 22 日に尾崎之紀氏(37 期、味の浜藤㈱)が講義を行いました。1 年次の必修科目である「海洋基礎実習」への支援、スポーツフェスタ(学部運動会)の学科 T シャツ作成、学科広報用パンフレットの作成[学科イメージのイラストは安齊 俊氏(55 期、イラストレーター)のデザイン]を支援しました。今年度中には、学科受験生対策勉強会への補助、在学学生の学会参加費等の補助、卒業時の記念品の贈答、就職活動の支援等をする予定です。

海洋生物資源科学科の近況

【新入生・在学生】

本年 4 月に 156 名(男子 114 名、女子 42 名)の新入生を迎え、現在 609 名(男子 414 名、女子 195 名)の学生が在籍しています。昨年の新入生から新カリキュラム、一昨年度以前

入学の在学学生は旧カリキュラムでの授業を行っています。新入生オリエンテーション(「海洋基礎実習」の一部)として 4 月 18 日(土)に鵜沼海岸で地曳き網と新江ノ島水族館見学を行いました。当日は、快晴の下、教員・学生と一緒に網を曳きました。

【人事】

本年 4 月 1 日付で、福島英登准教授(海洋機能性食品学、海洋生物利用学研究室)と井上菜穂子助教(生物機能化学実験担当、生物機能化学研究室)が着任し、中井静子先生が助教、間野伸宏先生が准教授にそれぞれ昇格されました。



福島 英登 准教授



井上 菜穂子 助教

桜水会事務局より

【新入生・在学生】

桜水会々員の皆様の近況や同期会等の活動のご様子を事務局までお知らせください。桜水会のホームページは http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kaiyo/wp/o-sui_description/ からご覧いただけます。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご活用ください。

(荒 功一)



新入生オリエンテーション

工 学 会

生物環境工学科

連絡先：水資源環境工学科研究室
0466-84-3693 事務局長 石川 重雄
E-mail: sishika@brs.nihon-u.ac.jp

会員の動向

正会員数は、平成26年度卒業生136名を加え、平成27年3月現在7104名となりました。現役学生である準会員は、1年生164名(男130・女34)、2年生128名(男96・女32)、3年生159名(男107・女52)、4年生158名(男122・女36)で、合計609名(男455・女154)となっています。したがって、現役学生の男女比はほぼ3:1という状況です。

平成26年度総会・講演会 および懇親会の開催

平成26年10月25日、平成26年度総会・講演会が9月に完成したばかりの生物資源科学部新1号館にて行われました。総会では25年度事業報告および決算報告、26年度事業計画および予算案のほか、前年に開催された創立50周年記念事業と収支について報告があり、承認されました。さらに役員の改選期にあたることから、第18期役員(酒川会長以下、役員17名、会計監査2名、相談役3名)が承認され、平成26年10月より3年間の運営体制が発足しました。

恒例の講演会では、「国際プロジェクトにおける国内立地の調査検討について」と題して、昭和59年卒(株)福山コンサルタント東北事業部に勤務の片岡俊正氏より講演を、続いての講演では、「野生動物と生態系を守る新たな一手を求めて」と題して生物環境工学科助教の三谷奈保氏より講演いただきました。両講演とも、今日震災復興などで盛んとなっている土木事業における調査検討事例、農山村で問題となっている鳥獣害被害や外来生物問題などに多方面から非常に関心の高い内容で、多くの現役学生、会員および来賓の聴講者を集めました。

引き続き、懇親会は食堂棟3階に会場を移し、約50名の会員、約20名の来賓の参加者を集め、短時間ながらも情報交換と懇親に有意義な時間を過ごすことができました。



片岡 俊正氏



三谷 奈保氏



懇親会でのひとコマ

学科教員の動向

平成27年度の昇格人事として、生物生産流通施設学研究室の都 甲洙先生が教授(研究所)に、地域環境保全学研究室の對馬孝治先生が専任講師に昇格されました。今後ますます学生教育と研究などで活躍されることが期待されております。新任人事として、学科事務室に佐藤成美実習助手が着任されました。佐藤実習助手は本学部森林資源科学科の卒業で、鳥類の種類と生態に詳しい方です。学科全体では、教員18名(教授7名、准教授7名、専任講師2名、助教1名、助手1名)、実習助手2名、合計20名の布陣で教育研究活動にあたっております。



実習助手：佐藤さん

スポーツフェスタ

学部スポーツフェスタ(運動会)が5月14日に開催され、当学科の1年生は晴天の中、奮闘してくれました。学科対抗競技では思うように上位とはいきませんでしたが、工学会からの支援によるTシャツを着用し、共に競技に参加することで同朋意識を高める良い機会になった様です。



スポーツフェスタおそろいのTシャツで

海外研修の実施

8月3日～12日(9泊10日)の日程で、アメリカ合衆国ニューヨーク州への海外研修に本学科3年の男子7名、女子5名が参加しました。内ヶ崎准教授、山崎助手および磯部実習助手の引率により、イサカ・エコビレッジ、コーネル大学をはじめ、ワイン工場などの視察も行い有意義な研修となったようです。昨年に続き2度目の実施ですが、新カリキュラム3年次科目の「海外研修」として行われた初めての研修旅行となりました。10月に行われる研修報告会での発表を経て単位が認定されます。



海外研修の様子

FT 会

食品生命学科

連絡先：食品分析学研究室
0466-84-3987 事務局長 千野 誠
E-mail: chino.makoto@nihon-u.ac.jp

FT会活動報告

【FT会理事会および総会の開催】

FT会理事会が平成27年4月11日に、総会は平成27年6月6日に本学湘南キャンパスにおいて開催されました。総会では平成26年度事業報告および会計収支決算が承認されました。さらに、平成27年度事業計画案および会計収支予算に関しても承認されました。

【FT会創立50周年記念祝賀会】

FT会創立50周年記念祝賀会が平成27年年6月13日、夕刻より渋谷東急セルリアンタワーホテルにて盛会に行われました。露木先生、唯野先生および伊藤先生をはじめ多くの恩師の先生と350名を超える卒業生が集まり、会場のいたるところで久しぶりに会う仲間との談笑の輪が広がっていました。記念祝賀会に参加された方々と準備にご尽力いただいた方々に感謝申し上げます。

【準会員（在学生）への活動】

FT会では、準会員の活動援助として、4年生へは、研究室対抗スポー

ツ大会懇親会の補助と卒業記念品の贈呈を行いました。4年生へ授与するFT会長賞には、望月理衣さんと渡邊真衣さんが選ばれました。3年生へは、教員との懇親会へ飲食物の補助を、1年生へは、学部スポーツフェスタでの飲料の提供を行いました。なお、スポーツフェスタは、準優勝という見事な成績でした。また、全学生に対して資格試験受験料の補助も行いました。



フレッシュマンセミナー



スポーツフェスタ



FT会創立50周年記念祝賀会

学科の近況

【学科人事】

平成27年度に食品生命学科では、以下の人事異動が行われました。
津田真人 助教(採用、食品生命機能学研究室)、鈴木友里 実習助手(採用、学科事務)、鈴木公一 准教授(昇格)、阿部申 准教授(昇格)、成澤直規 専任講師(昇格)、高橋恭子 准教授(応用生物科学へ移動)、稲葉由貴 実習助手(退職)。以上ですが、皆様の今後ますますのご活躍を祈念いたします。

【訃報】

食品微生物学研究室の准教授 古川壮一先生が平成27年3月にご逝去されました。古川先生は、発酵食品などの微生物バイオフィルムの研究に多大な貢献をされ、学生教育にも非常に熱心な方でした。今まで先生が本学科の教育研究にご尽力されたことに感謝申し上げるとともに、先生のご冥福をお祈り申し上げます。また、食品加工実習所にて、学生の教育研究に長年、携わっておられました荒井安雄(7期生)さんが平成27年1月に、和田修直さんが平成27年4月にご逝去されました。ここに、ご冥福をお祈り申し上げます。

事務局より

会員の方々に、住所変更や改姓などがございましたら、ぜひ事務局までお知らせ下さい。また、FT会のホームページ(<http://ftkai.net/>)からも各種変更届を受け付けております。

(阿部 申)

拓友会

国際地域開発学科

連絡先：熱帯資源作物研究室
0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸
E-mail: kurauchi@brs.nihon-u.ac.jp

平成 27 年度幹事会および 総会の報告

平成 27 年 5 月 30 日、平成 27 年度拓友会幹事会および総会が開催されました。第 1 号議案として、平成 26 年度活動報告ならびに決算報告、第 2 号議案として、平成 27 年度事業計画案ならびに予算案、第 3 号議案として、会則改正の件が審議され、事務局提案が承認されました。

平成 26 年度拓友賞授与

平成 26 年度の拓友賞は、谷裕介さんが国際地域開発学科より推薦され、平成 27 年 3 月 25 日に実施された卒業証書伝達式の席上、内田会長より表彰状ならびに副賞が授与されました。

平成 27 年度 学科海外研修旅行開催

8 月から 9 月にかけて学科主催の海外研修旅行は東アジアコース 8 名（水野先生、李先生）、タイコース 13 名（林



タンザニアの農村児童調査



コスタリカ大学での講義受講

先生、園江先生、細澤実習助手）が開催されました。また、特別海外研修

として、コスタリカコース 11 名（溝辺先生）、タンザニアコース 6 名（倉内先生、加藤先生）が開催されました。4 つの海外研修を開催しているのは本学科のみです。学生の海外研修志願者は多く、今後も本学科教育の目玉として続けて行く予定です。特別海外研修には、拓友会から補助金をいただき開催することができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

国際地域開発 特別推薦入試スタート

平成 27 年度入試より、本学科独自の推薦入試制度がスタートしました。この制度は、高校評定平均値が 3.5 以上で、英検二級、TOEIC500 点以上、TOEFL iBT40 点以上が出願要件となっており、特に英語能力を活かして海外で活躍できる人材を育成する試みです。高校生からの注目度も高く、志願者増が期待されます。

活躍する拓友

青年海外協力隊派遣

平成 27 年卒

加藤遼（ルワンダ：野菜栽培）

宮川継右（フィリピン：野菜栽培）

平成 27 年 3 月の卒業生のうち、2 名が新卒で青年海外協力隊に派遣されました。2 名とも職種は野菜栽培で、加藤遼君はルワンダに、宮川継右君はフィリピンに派遣されました。2 年間、健康に留意されて活躍してくれることを祈念いたします。

平成 25 年卒

斉藤雄介 青年海外協力隊 セネガル国派遣中

昨年度に引き続き、平成 27 年 5 月 26 日の「国際地域開発学入門」の講義において、JOCA（青年海外協力協会）協力のもとに青年海外協力隊説明会を実施しました。その中で現在派遣中の OB の斎藤雄介君とスカイプを使いリアルタイムで 1 年生とセネガルを結んで意見交換を行いました。1 年生の中には青年海外協力隊への参加希望者も多いので、現地の声を生で聞けて勉強になったと大好評でした。



スカイプによるセネガルとの双方向通信講義

教員の動向

長年にわたり拓友会事務局長を務められた早川治教授が、平成 27 年 3 月 31 日に定年退職されました。今後は非常勤講師として学生指導および後輩教員の指導をお願いします。平成 27 年 4 月 1 日付で松本礼史先生が教授に昇格されました。おめでとうございます。



早川 治 非常勤講師



時田 邦浩 教授



李 裕敬 助教

また、国際協力研究室に時田邦浩先生が教授として、国際経営・流通研究室に李裕敬先生が助教として採用されました。今後のご活躍をお祈りいたします。

在校生の近況

平成 27 年 7 月 16 日現在、1 年生 155 名、2 年生 159 名、3 年生 163 名、4 年生 152 名の合計 629 名（うち男子 411 名、女子 218 名）が在籍しています。

拓友会事務局より

拓友会ホームページ <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~takuyu/takuyu/toppupeji.html> をご覧下さい。また、会員各位の近況や同期会などの活動の様子もお知らせ下さい。住所変更もホームページから行えます。

（倉内 伸幸）

応用生物科学科校友会

応用生物科学科

連絡先：生体分子学研究室
0466-84-3353 事務局長 明石 智義
E-mail: akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

学科の近況

【在学生と卒業生】

応用生物科学科の在籍学生数は590名、学年別では1年生145名(男70名、女75名)、2年生156名(男92名、女64名)、3年生126名(男70名、女56名)、4年生160名(男100名、女60名)となっています。昨年度は126名(男71名、女55名)の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。卒業生のご活躍を期待します。

【新カリキュラム】

カリキュラムを改正して2年目となりました。学生実験は動物分野、植物分野、微生物分野に分かれ、1年次後期よりはじまり3年次前期まで行います。また2年次の「特別講義I」では、学生の将来と就職についての意識を高めてもらう為、各分野で活躍されている学科の卒業生(8名)に来て頂き業界の現状と将来についてオムニバス形式で講義をして頂きました。今後卒業生の皆様にお声をおかけするかもしれませんので、その際はよろしくをお願いします。

学科教員の動きと研究室体制

食品生命学科の高橋恭子准教授が異動され、平成27年度より応用生物科学科の教員のメンバーに加わりました。また土屋徳司専任講師、西山辰也助手が採用されました。司馬肇先生が教授に、舩廣善和先生が准教授に、高野英晃先生が専任講師に昇格されました。実習助手として学科事務、学生実習にご尽力戴いた蝦名佐和子さんが退職しました。後任として本年度から吉田麻友さんが実習助手として採用されました。教員の異動や採用に伴い、研究室の体制が変更になりました。

核酸・蛋白質科学研究室

(司馬肇教授、舩廣善和准教授、新井直

人専任講師)

生命工学研究室

(上田賢志教授、高野英晃専任講師、西山辰也助手)

分子微生物学研究室

(砂入道夫教授、岩淵範之准教授)

植物細胞学研究室

(内山寛教授、土屋徳司専任講師)

生体分子学研究室

(青木俊夫教授、明石智義准教授)

動物生体機構学研究室

(加野浩一郎教授、沖嘉尚助手)

細胞機能調節学研究室

(花澤重正教授、高橋恭子准教授)

生理機能科学研究室

(池田和正准教授、苔名充准教授)

学科事務室

(太田早紀実習助手、吉田麻友実習助手)



蝦名さんの送別会

協賛活動

平成27年4月に、新入生の相互交流や教職員とのコミュニケーションを図る目的で、新入生歓迎会を行いました。学科の教職員と100名以上の新入生が参加しました。皆、楽しく懇談し親睦を深めていました。ボランティアの4年生や大学院生も参加し、講義や学生実験、さらに研究室の様子などを紹介していました。同じく5月にはスポーツフェスタが開催され、学生、教員ともに統一されたTシャツを着て競技や応援を行いました。5月24日(日)と8月2日(日)、3日(月)には、学部のオープンキャンパスが開催されました。高野専任講師(微生物ハンター～新しい薬を求めて～)と土屋専任講師(植物免疫の仕組み～進化と免疫システム～)による模擬講義が行われました。4号館では各研究室の展示を行いました。研究室の展示では、学生、大学院生、教員が研究内

容をわかりやすく紹介し、さらに模擬実験等も開催されたいへん好評でした。また研究室の開放を行いました。



新入生歓迎会



模擬講義



スポーツフェスタ



オープンキャンパス

事務局より

学科校友会総会を平成28年3月に開催予定です。事務局では会員の皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しています。ご一報下さいますよう、お願い致します。

(明石 智義)

短期大学部湘南校友会

短期大学部生物資源学科

連絡先：短期大学部 教養・国語研究室
0466-84-3749 事務局長 蒲原義明
E-mail: kamohara@brs.nihon-u.ac.jp

平成 27 年度総会・懇親会の開催

平成 27 年 6 月 27 日(土) 16 時より湘南校舎新 1 号館にて平成 27 年度短期大学部湘南校友会総会が開催されました。平成 26 年度業務報告・決算報告、監査報告等が承認され、平成 27 年度の事業計画、予算案が決定されました。

【懇談会の開催】

上記総会后、17 時より湘南校舎本館地下一階スエヒロにて懇談会が開催されました。滝沢章会長の挨拶に続き、来賓の生物資源科学部次長長谷川功教授、学部校友会内田俊太郎会長からご挨拶を頂きました。生物資源科学部の各校友会分会の皆様方にもご参加いただきました。現職の先生方はもちろんの事、ご退職された青山友雄先生、浅野紘臣先生、飯尾満先生も来てくださいました。また遠く宮崎県から参加された校友もいらっしゃり、終始和やかな雰囲気の中でのパーティとなりました。



校友会懇談会の様子 1

学科の近況

【卒業生】

平成 27 年 3 月 25 日に 145 名が無事卒業しました。武道館で卒業式、湘南校舎にて学位伝達式が執り行われました。翌日には卒業パーティがみなとみらい横浜ロイヤルパークホテルにて華やかに行われました。卒業後の進路は、生物資源科学部への編入 88 名(三年次編入: 54 名、二年次編入: 34 名)、他大学・他学部への編入 11 名、専門学校 8 名、就職 16 名、留学 1 名、その他はアルバイト・家事・就職活動中等です。他大学・他学部の編入は、宇都宮大学、奈良女子大学、琉球大学、長野大学、日本大学国際関係学部、日本大学通信教育部等であります。就職先については、日本リビング株式会社、ほこた農業協同組合、アルカディア市ヶ谷(私学会館)、伊勢原市農業協同組合、株式会社精養軒等が挙げられます。

【募集停止のお知らせと当会の今後について】

短期大学部生物資源学科では昨年度平成 26 年度入学生を最後に、学生募集を停止いたしました。平成 26 年度入学生が卒業する平成 28 年 3 月をもって 1950 年設立された本学科の前身である農業科から数えて 66 年

の歴史が閉じられる事になります。大変寂しい事ですが、在学生においては、卒業するまで責任をもってこれまでと同様に編入学、就職など一人一人のニーズに合わせたサポートを行っていきます。尚、平成 27 年 8 月に特別委員会が開かれ、当校友会は何らかの形で存続させるという方向で調整が進められることになりました。

【学科教員動向】

平成 27 年 3 月で実習助手庭野綾子さんがご退職されました。平成 27 年 4 月に生物資源科学科学部に新学科・くらしの生物学科が開設され、短期大学部生物資源学科の先生方の新学科への異動がありました。安齋寛先生(くらしのバイオ研究室)、渡邊慶一先生(都市と園芸研究室)、島田正文先生(住まいと住環境研究室)、光澤浩先生(くらしの微生物研究室)、新町文絵先生(くらしの植物研究室)、山下正道先生(食と健康研究室)、相澤朋子先生(くらしの微生物研究室)。以上のように多くの先生方が新学科へ異動されましたが、短期大学部生物資源科学科の在校生が卒業するまで引き続き指導を行います。尚、平成 27 年 4 月より蒲原義明先生が短期大学部生物資源学科の学科主任となりました。

事務局より

湘南校友会の HP が開設されました。URL は、<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~shonan/> です。または日本大学生物資源科学部校友会の HP『分会・支部一覧』のページよりリンクされています。是非一度ご覧ください。会員の方々に住所変更や改姓がございましたら、ホームページより変更手続きをお願い致します。

(山内 綾子)



校友会懇談会の様子 3

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3131 仙台市泉区七北田字町 31
小野 隆 事務所内 支部長 小野 隆
TEL.022-372-4637 FAX.022-374-8844
E-mail : ono.takashi@almond.ocn.ne.jp

▼8月24日エスカイヤクラブ仙台で研修会・総会・懇親会開催



来賓・出席者記念写真

▼支部活動費補助金交付金式



内田会長より小野支部長へ

▼鎌田幹事長、宮城の名工・26年度宮城県卓越技能者受賞記念「仙台味噌商品価値向上」講話



鎌田雅敬・1級みそ製造技能士

▼4月12日残雪の蔵王連峰を背に白石川堤一目千本桜散策観桜

▼9月5日「仙山交流会、牛タン・地酒・仙台工場産麒麟一番搾り・ニッカウヰスキーで懇親



政宗公騎馬像前で記念写真

(事務局長 櫻田 昇)

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市鳥居が丘 4-55
日本大学山形高等学校 小嶋 佑治
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail : kozima.yuji@nihon-u.ac.jp

山形県支部総会・懇親会を平成27年2月21日「ホテルメトロポリタン山形」にて開催し県内に幅広くいる会員以外に、多数の来賓の方々にもご臨席いただきました。総会終了後、記念講演会に移り、講師に獣医学科教授 津曲茂久先生を迎え『婚姻制度の変遷からわが国の人口減少を考える』と題しての講演をいただき興味深い内容に一同うなずいておりました。また、来賓の校友会副会長 横川屹氏より「大学・校友会の近況について」お話をいただき来年より募集する新学科が下馬の地に開校することを聞き日本大学の躍進を感じました。懇親会では、恒例になっております学科毎の「自己紹介」や「近況報告」を通して更に親交を深め、絆を深める事が出来ました。

この度、本会の副支部長である池田卓郎氏が7月11日平成27年度生物資源科学部総会・懇親会において表彰を授与されました。池田氏は支部創設以来20余年の長きにわたり事務局長、幹事長、副支部長として県校友会の発展に寄与したことで表彰されました。

第2回「仙山交流会」が行われました。9月5日仙台駅集合「るーぷる仙台」を利用しての歴史探訪、そして美味しい地元料理・お酒での懇親会、楽しい一日でした。

(山形県支部 事務局長 齊藤 広樹)



山形県支部 第23回 総会写真

高知県支部の近況

連絡先 〒785-0610 高知県高岡郡梼原町梼原 1173-2
高知県支部事務局 来米 豊史
TEL.0889-65-0818
E-mail : kurume@flute.ocn.ne.jp

第27回高知県支部総会と懇親会を平成27年8月22日に昨年と同じ宮尾登美子原作の「陽暉楼」の舞台となった料亭得月楼で開催しました。総会には校友会副会長 浜野光年様、日大名誉教授で医学博士、有賀豊彦先生に御臨席頂き支部会員は21名の出席でした。ご来賓の浜野様からは日本の

国菌・糞菌の活躍という演題でのお話を、有賀様の機能性食品について、というお話には質問も多数飛び交い有意義な講演を頂きました。その後懇親会へと移り、にぎやかに土佐流の宴会が始まりました。ご来賓の先生方には土佐らしいお土産をということで“べく杯”をご用意しました。これは酒席の余興に使う物で、回すコマにそれぞれ天狗、おかめ、ひょっとこ、と大きさの違う杯を示してあり、止まったコマの指すところの人は示された杯で、(杯は一度酒を注がれば置くことはできず)すぐに飲み干さなければならないというルールです。土佐では宴会や飲み会を“お客をする”と言いますが、“土佐のおきやく”というイベントでのシンボルキャラは“べろべろの神様”です。べく杯のコマを回す時は“べろべろの～神様は～正直な神様よ～〇〇のほうへと おもむきやれ おもむきやれ”というお囃子で盛り上げます。来賓の先生方にも使い方を覚えてお帰り頂くべく得月楼の仲居さんも交えて“べろべろの～神様は～”と盛り上がりしました。最後は岡林支部会副会長の音頭で応援エール、校歌でしめた後、夜の繁華街に先生方をご案内と2次会に繰り出し、前川会長にもべろべろの神様は徐々に降臨されつつ、夏の土佐の夜はふけゆきました。



神奈川県支部の近況

連絡先
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866
日本大学生物資源科学部 神奈川県支部事務局
事務局長 百瀬 博文 Tel.0466-84-3393
E-mail: momose@brs.nihon-u.ac.jp

神奈川県支部では、5月30日に開催された平成27年度総会の議決を経て、小牧弘氏が支部長に就任、新体制に移行しました。佐々木透、矢口智康、中島慎一の3氏が副支部長として小牧支部長を支えています。また、7月の役員会で世良田和寛前支部長を顧問に推薦する発議があり、承認されました。

神奈川県支部は毎週月曜日に有志が集い、20種類もの野菜栽培・その他の活動で親睦を深めています。学部の事業に伴い、一坪農園と昨年新設したビニールハウスは配置換えとなり、一念

発起して栽培に励んでいます。支部活動の様子は随時 Web で紹介しています(学部校友会 HP よりリンクあり)。小牧支部長を中心とした養蜂活動では、採集した蜂蜜を「湘南の百花密」と名づけ、会員には優先的に、また学部祭でも販売致しました。続いて12月20日には新蕎麦の試食会を行いました。今年に入り、1月2・3日には藤沢遊行寺坂上のヨンドンで箱根駅伝の応援と新年会を行いました。7月末には有志による横浜港クルージング納涼会が行われ、発起人であった吉田良之氏を偲び、同時に猛暑を乗り切る鋭気を養いました。

学部生・院生・教職員の方々は何方でも入会可能で校友会活動を楽しむことができます。皆様方の多数のご参加をお待ちしています。不明点は事務局ま

でお問い合わせください。



崎陽軒本店(横浜)で行われた総会懇親会にて



一坪農園での里芋管理作業

校友会からのお知らせ

1 新学科の開設について

平成27年度から生物資源科学部に12番目の学科として「くらしの生物学科」が開設され、初年度は114名の学生が入学しました。詳しくは生物資源科学部のホームページをご覧ください。

2 小学校の開校について

日本大学で初めての付属小学校が生物資源科学部に日本大学藤沢小学校として、平成27年4月に開校しました。2クラス72名の小学1年生が通っています。

3 平成28年度の通常総会及び懇親会の開催について

(1) 通常総会

日時 平成28年7月9日(土) 午後2時から
場所 日本大学生物資源科学部 NUホールA

(2) 懇親会

日時 平成28年7月9日(土) 午後4時から
場所 日本大学生物資源科学部 食堂棟3階
なお、時間、場所等は変更することがありますので、予めご了承願います。

4 ホームカミングデーの開催について

校友会では平成28年度に学部と共同でホームカミングデーを開催すべく現在検討中です。開催日程等の詳細は、平成28年度に入ってからお知らせします。

5 平成27年度藤桜(学部)祭について

平成27年度の学園祭は、10月31日(土)から11月2日(月)までの3日間学部内で開催されます。

校友会では、休憩の場とし博物館棟2階の事務局会議室に「OB・OGの部屋」を準備いたしますので、お気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。

6 本会報に関するお問合せは、校友会事務局までお願いします。

- (1) 担当: 宮島、熊澤
- (2) 住所: 〒252-0880
神奈川県藤沢市亀井野 1866
- (3) TEL: 0466-84-3799
- (4) FAX: 0466-84-3531
- (5) E-mail: koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

日本大学生物資源科学部校友会 役員名簿

(平成27年10月1日現在)

名誉会長	河野 英一	幹事	谷川 清	紫友会・生化学会	幹事	鍛代 邦夫	あすなる会・森林	幹事	今泉 隆次	応用生物校友会
会長	内田 俊太郎	幹事	荻原 淳	紫友会・生化学会	幹事	橋ヶ迫 覚	桜水会・海洋	幹事	明石 智義	応用生物校友会
幹事	津曲 茂久	幹事	中川 秀樹	角笛会・獣医	幹事	加部 都夫	桜水会・海洋	幹事	滝沢 章	湘南校友会・短大
副会長	浜野 光年	幹事	鎌田 寛	角笛会・獣医	幹事	黒澤 慶司	桜水会・海洋	幹事	福井 祥子	湘南校友会・短大
〃	山本 捷	幹事	丸山 総一	角笛会・獣医	幹事	酒川 和男	工学部・環工	幹事	浦原 義明	湘南校友会・文理
〃	横川 屹	幹事	小杉 幸彦	満喜葉会・動物	幹事	福田 澄雄	工学部・環工	監査役	渡部 有賀	紫友会・生化学会
〃	関村 具由	幹事	小泉 聖一	満喜葉会・動物	幹事	石川 重雄	工学部・環工	〃	木島 実	いもづる会・食ビ
〃	近藤 明宏	幹事	藤井 正気	いもづる会・食ビ	〃	栢 英彦	F.T.会・食生	〃		
幹事	長島 武志	〃	宮部 和幸	いもづる会・食ビ	〃	千野 誠	F.T.会・食生	〃		
〃	佐々木 透	〃	宮島 吉夫	あすなる会・森林	〃	小谷田 操	拓友会・国際	〃		
〃	井上 弘明	〃	東郷 聖史	あすなる会・森林	〃	倉内 伸幸	拓友会・国際	〃		

会報編集委員名簿

富 嶽 会 立 石 亮	いもづる会 宮部 和幸	F T 会 阿部 申
紫友会 赤尾 真	あすなる会 阿部 和時	拓友会 倉内 伸幸
角笛会 岡林 堅	桜水会 荒功 一	応用生物学科校友会 明石 智義
満喜葉会 山室 裕	工学部 笹田 勝寛	湘南校友会 山内 綾子

※表紙の写真は学部写真発見隊(写真サークル)の提供です。

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

TEL:0466-84-3799 FAX:0466-84-3531 E-mail:koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

印刷所:(株)デイ・エム・ピー 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町561 TEL:03-5292-6800(代) FAX:03-5292-6871